

集え！

要
オイスカ会員の皆様

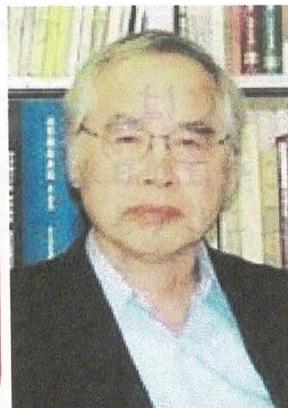
「知」のワールドへ

樋泉 克夫 先生 講演会

(愛知県立大学名誉教授・オイスカ理事)

【演題】東南アジアの“現実” —改めて日本人として考える—

変化の著しい東南アジアと接する場合、大多数の日本人が従来から持ち続けてきた「上から目線」は現在では通用しないばかりか、むしろ誤解の根元となっている。だから日本人にとっての急務は東南アジアの現実を素直に見直すこと。そこから再出発し直すことで、東南アジアの人々との新しい信頼関係を築くべきではないか……。



【日時】令和6年3月6日（水）午後6時～午後8時

【会場】オイスカ中部日本研修センター ホール

〒470-0328 豊田市勘八町勘八27-56

電話番号：0565-42-1101 FAX：0565-42-1103

Eメール：chubutc@oisca.org

参 加 申 込 表

ご芳名

ご講演概要

！文集

私は昭和 22 (1947) 年の生まれですが、もの心がついて以来、日本社会を停滞した気分が包み込み、日本人の振る舞いが現在ほどに意氣消沈して見えるような記憶がありません。

日本の歴史始まって以来の大困難が待ち構えていた昭和 20 (1945) 年 8 月 15 日のその日であっても、おそらく日本社会は打ちひしがれてはいなかつた。多くの日本人の心は明日に向かって力強く高鳴っていたはずです。「さあ、再出発だ！」と。

国際社会における日本の存在感を支えていた世界第 2 位の経済大国の地位は 10 年ほど前に中国に超えられ、最近になってドイツにも追い抜かれ、ついに第 4 位に後退してしまいました。だが、ここで手を拱いたままで立ち止まっているわけにはいきません。いまこそ求められているのは、第 2 の「さあ、再出発だ！」ではないでしょうか。

では、どうすべきか。

やはり日本を取り巻く内外環境を新しい視点に立って見直し、これまで見過ごしてきた点に目を向け、日本と日本人にとって“不都合な現実”を直視する。そうすることで、必ずや新しい道が切り開けるものと確信するわけです。

いま急ぐべきは現実にそぐわない昨日までの“常識”に再検討を加え、捨てるべきは捨て、予想される将来像から現在を見つめることではないでしょうか。そこから新しい考えが生まれてくるはずです。

そこで、先ずは我が国にとって最も親しい周辺の国々の現状と我が国との関係を見直すことを提案します。

戦後日本の復興から隆盛にかけて大きな役割を果たし、多くの日本人が慣れ親しんできた東南アジアの国々の現在——その“ありのままの姿”を、私が現地調査で写した写真などの資料を多く使いながら歴史的視点を加え見直すことで、日本人として、これから東南アジアとどのように付き合うべきかを考えたいと思います。